



2020年10月15日

各 位

会 社 名 株式会社くろがね工作所
代表者名 代表取締役社長 神足 尚孝
(コード：7997、東証第2部)
問合せ先 取締役経営管理本部長 森 吉武
(TEL. 06-6538-1010)

特別損失の発生及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年11月期（2019年12月1日～2020年11月30日）において、下記のとおり特別損失を計上する見込みです。また、2020年1月17日に公表いたしました2020年11月期（2019年12月1日～2020年11月30日）の連結通期業績予想および個別通期業績予想につきまして、下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

1. 特別損失の発生

当社では、ポストコロナの時代を見据えたモバイルワークの実践と情報・コミュニケーションのハブとなるセンターオフィス及びモバイルワーカーのコワーキングスペースとしてのサテライトオフィスという新しいワークスタイルの在り方に対し、当社の企業理念である「人と環境にやさしい空間創造」を体現するに相応しい働き方を実践する場（東京、大阪の5拠点）を実現するべく、営業拠点の再配置を行うと同時に、それに伴う本社及び東京営業所の一部賃借スペースを本年11月末日に返却し、その返却に伴う原状回復工事費用、固定資産除却損等による特別損失として2020年11月期第4四半期において、34百万円が発生する見込みであります。なお、一時的に特別損失を計上いたしますが、来期以降は事務所賃借料の削減による固定費の削減（48百万円）が見込まれます。

2. 通期の通期業績予想数値の修正

(1) 連結業績

単位：百万円

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想（A）	10,500	100	85	40	23円48銭
今回発表予想（B）	9,340	24	14	△70	△41円09銭
増減額（B-A）	△1,160	△76	△71	△110	
増減率（%）	△11.0	△76.0	△83.5	—	
（参考）前期連結実績 （2019年11月期）	9,550	△225	△238	△284	△167円19銭

(2) 個別業績

単位：百万円

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,480	65	30	17円61銭
今回発表予想 (B)	9,300	10	△68	△39円92銭
増減額 (B-A)	△1,180	△55	△98	
増減率 (%)	△11.3	△84.6	—	
(参考) 前期実績 (2019年11月期)	9,526	△261	△303	△177円92銭

(3) 通期業績予想数値修正の理由

売上面ですが、家具関連事業における事務用家具部門では、新型コロナウイルス感染症の発生による景気の不透明感から、今期に予定をしていた受注案件の規模の縮小や延期、また金融関連企業及び外資系企業における大規模新築・移転プロジェクトが翌期へずれる等の影響を受けました。建築付帯設備機器事業における建築付帯設備他部門は受注、引き合い件数が前下半期以降回復傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う建築現場の完工の遅れ、改修案件の延期や縮小等の影響を受けました。クリーン機器他設備機器部門では、世間の関心が高い「アフター・コロナ」、「ウィズ・コロナ」への対応を含めた IAQ (インテリア・エア・クオリティ) の改善・改良提案、省エネルギー対策への提案等に関して、足下は引き合い・受注案件が増加する一方、主力のクリーン機器の受注案件が翌期へずれる等により、業績予想数値との差異が発生する見込みであります。

損益面につきましては、主要材料である鋼材・樹脂等の原材料価格が高止まりをする中、生産品目の内製化の強化による外注加工費の削減、生産性の向上による製造原価の低減を推進した結果、売上総利益率は対前年比で改善をし、販売費及び一般管理費につきましては、組織・人員体制の見直しならびに業務の効率化による人件費の削減、WEB 会議の積極的な活用による旅費交通費の削減、運送・搬入経費の削減等により減少をしておりますが、売上高の減少に伴う粗利額の減少を補えなかったこと、また、前述に記載の特別損失が発生する見込みであることから業績予想数値との差異が発生する見込みであります。

以上